

地域交通系NGOとの協働による 将来公共交通ビジョンの可視化と 市民・民間に開かれた情報発信と機運醸成の実践 ～インドネシア・ジャカルタの事例から～



津村優磨（株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル／東京科学大学 博士後期課程）
スラム・アドリアン・ヤシン（FDTJ - Transport for Jakarta）
キムベリー・アグスティナ・マルタ（元 JUTPI Phase-3 JICA専門家チーム）
川口裕久（株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル）
久保 彩子（独立行政法人国際協力機構）

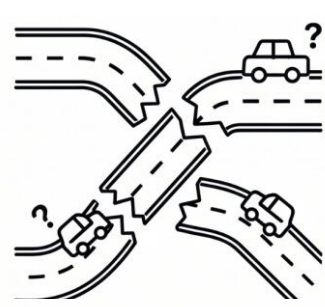
① なぜ今、インドネシア・ジャカルタがアツいのか？

日本の諸都市では、人口減少や都市の成熟を背景に、行政、交通事業者、民間事業者、大学、市民団体等が分野や組織を越えて関わり、**地域の将来像を共有しながら実装するアプローチが重視**されつつある。

他方で、**成長・拡大を続けるインドネシア・ジャカルタ都市圏でも**、MRT等の都市鉄道の整備が進み、TOD（沿線まちづくり）等へ接続し、**官民を超えた組織・分野横断型の実装が必要な段階**を迎えている。

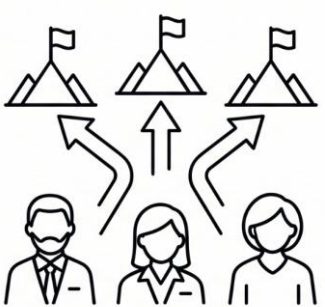
都市の発展局面は異なるが、**両者には共通する問い**があると考えます：

交通・モビリティの在り方（ビジョン）を共に考える中で、
多様な立場からの視点（立場性）をどのように取り入れるのか？



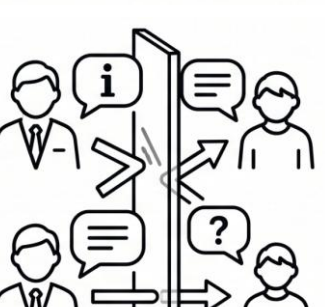
課題①：計画の分断・不整合

行政機関・交通事業者ごとに計画が策定され、齟齬が残る。



課題②：将来ビジョンの共有不足

目指すべき姿を、組織や分野を越えて共有する仕組みが弱い。



課題③：多様な視点からの対話の不足

将来ビジョンが市民・民間に伝わる形で発信されておらず、
多様なユーザーを巻き込んだ議論につながない。

② 地域交通系NGO（FDTJ）と協働！

FDTJ（Transport for Jakarta）は、公共交通の情報を起点として、**市民、行政、事業者をつなぐ市民発の協働プラットフォーム（NGO）**

本実践では、JICA技術協力プロジェクト「JUTPI Phase-3」が提案した将来公共交通ネットワーク提案に、**FDTJが長年蓄積してきた利用者視点デザインの知見、SNS等の市民対話の実践知を組み合わせた。**

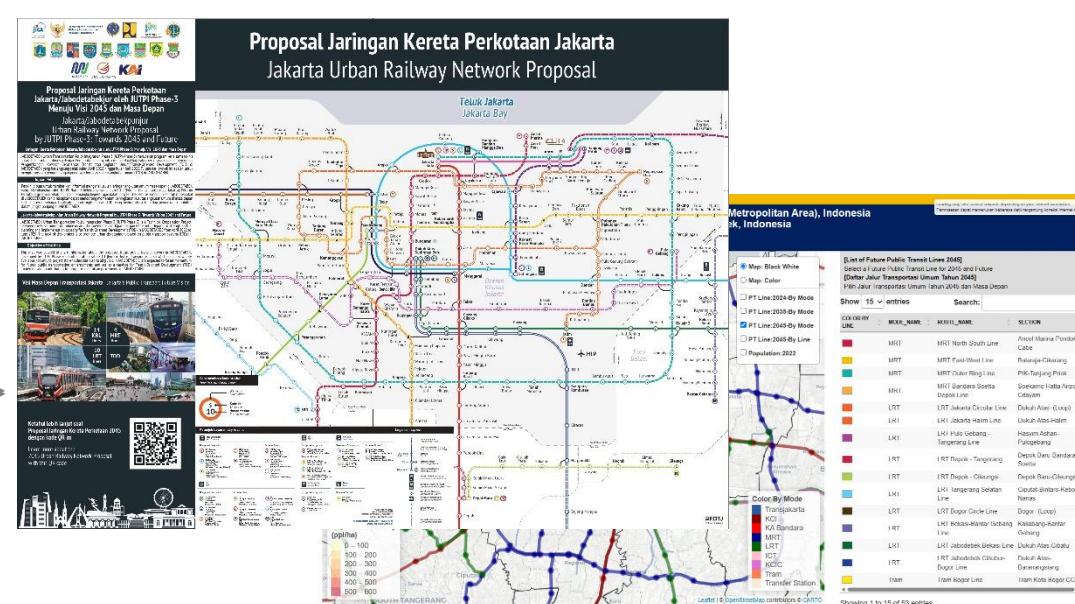
計画の構想に関する情報を誰にでも伝わるような形へ再構成・翻訳し、**ビジョンの可視化と市民・民間に広くひらくための発信に取り組んだ。**



【JICA/JUTPI Phase-3】
計画・政策・データ



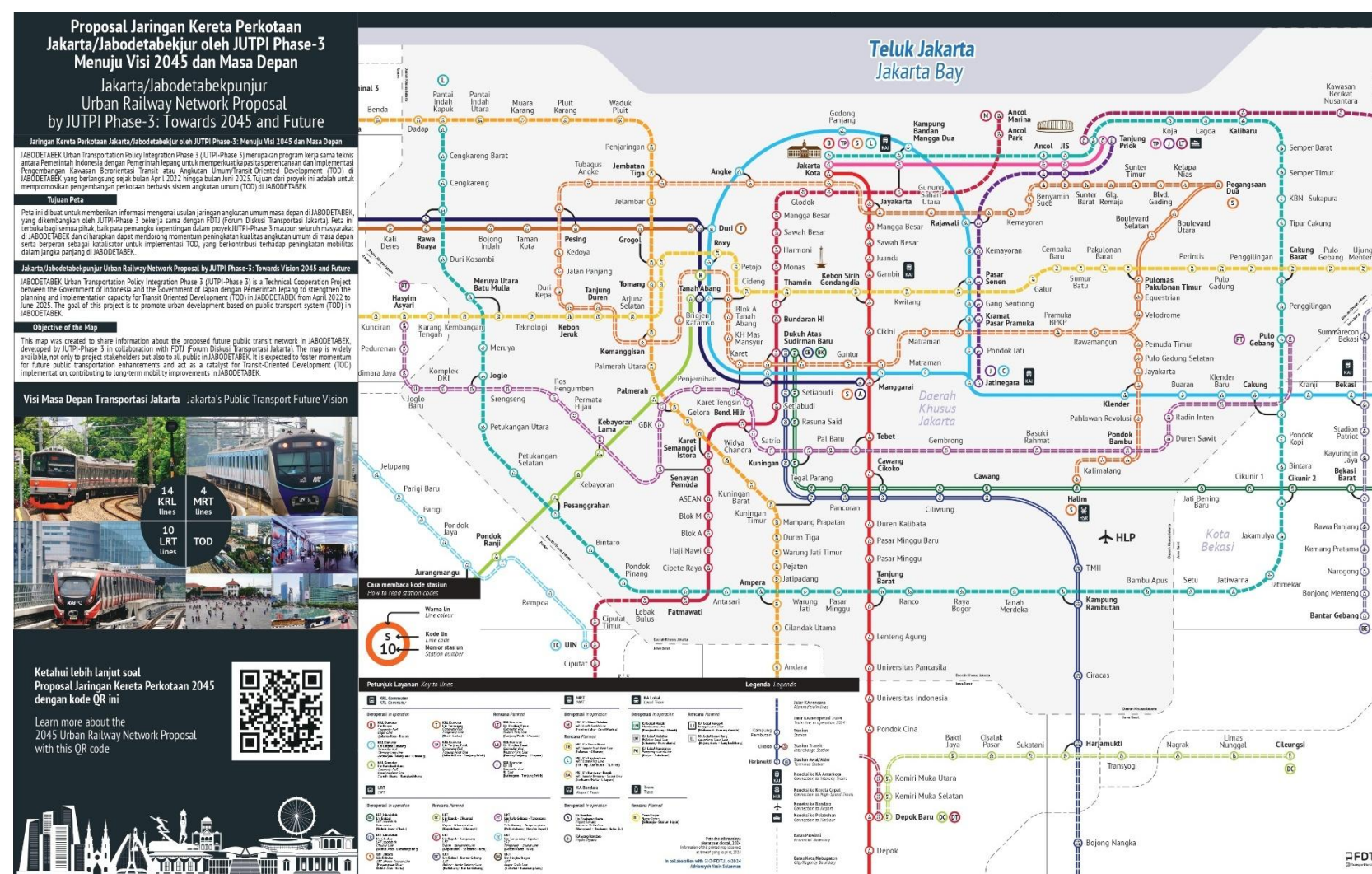
【FDTJ】
利用者視点のデザイン・
市民対話の実践知



計画 → 再構成 → 可視化 → 発信

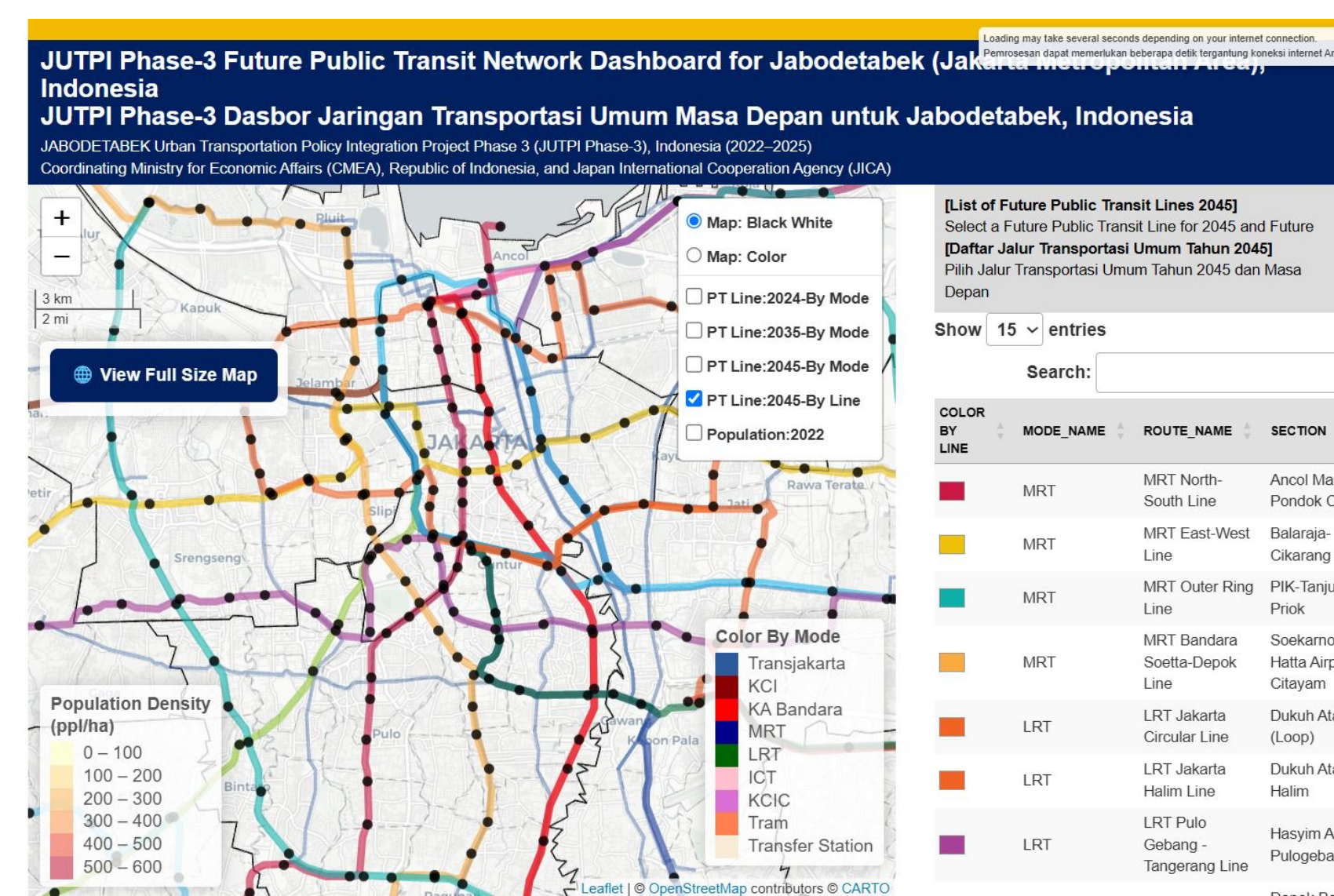
③ 将来公共交通ビジョンの可視化に挑戦！

長期的に構想されているMRT・LRT等の都市鉄道の計画路線を統合し、**ジャカルタ都市圏の将来公共交通ネットワークを一枚のマップとオンライン・ダッシュボードとして体系的に可視化**した。



オンライン・ ダッシュボード

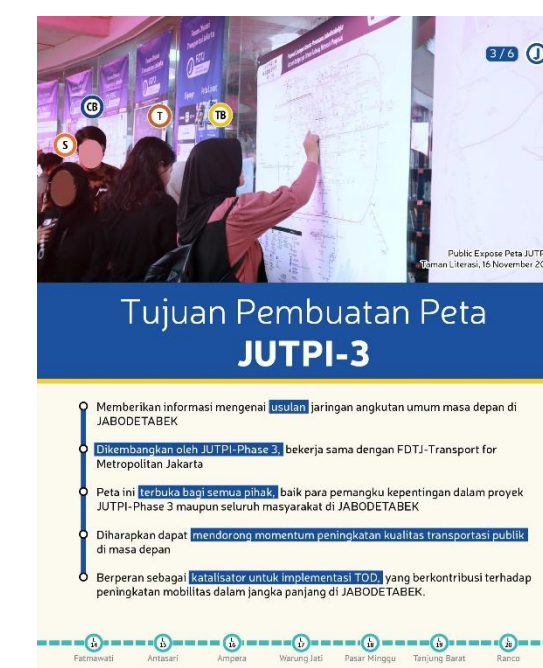
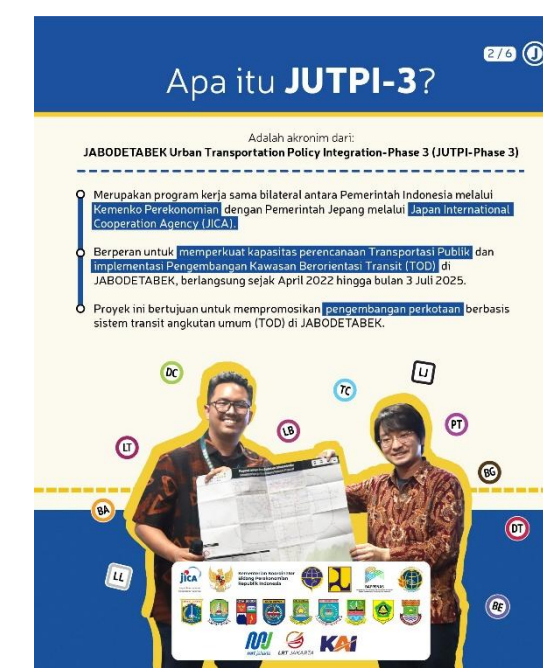
- オンライン地図上に**路線を詳細に可視化**
- 拡大・縮小、路線選択、**ハイライト等、自由度の高い操作機能を実装**
- 閲覧者が**関心を持つ地域を可視化、将来交通への理解と関心を促進**



④ 市民・民間に開かれたビジョンの発信を実践！

これらのツールを用いて、関係省庁、自治体、交通事業者等の間で共有し、**将来公共交通ネットワークに対する共通理解の形成に活用**した。

さらに、FDTJと連携して**市民ワークショップの実施やSNSでの発信**を精力的に行い、市民・利用者・民間事業者等の関心を喚起するとともに、**公共交通の将来ビジョンを社会に開くトライアルを実施**した。



**SNS等を通じて10万人以上に拡散！
市民による派生投稿多数（SNS・動画等）**

FDTJ – Transport for Jakarta とは？

Forum Diskusi Transportasi Jakarta

公共交通情報を起点に、**市民・事業者・行政をつなぐ、市民発の協働プラットフォーム（NGO）**

- 2014年にFacebookグループから活動開始
- 専任2名、副業・ボランティア約20名で構成
- 都市圏の公式路線図、統一サインシステム（ウェイファインディング）、市民WS・政策提案等を展開
- 市民、行政、事業者、大学、NGO等の**多様な主体を有機的に接続・仲介する主体として機能**
- 近年、インドネシアの**他都市での兄弟組織立ち上げ・活動支援、国際連携にも注力**



ビジョン：インドネシアの都市において、
持続可能なモビリティをすべての人の権利に

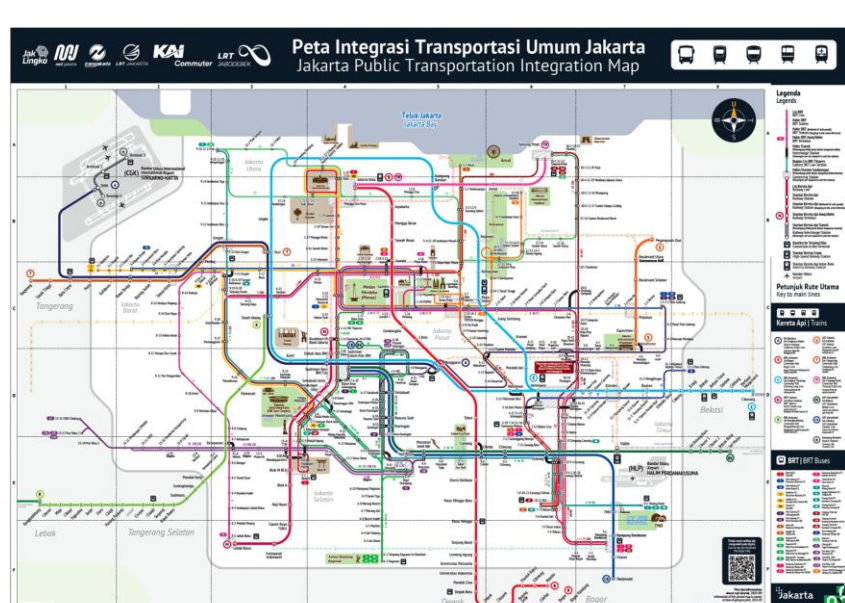
ミッション：インドネシアの都市で、持続可能なモビリティを推進する協働プラットフォームを目指すとともに、
情報発信を通じた公共交通へのモーダルシフトを促進

自発性 | 市民の課題意識から始まる

媒介性 | 異なる主体と視点をつなぐ

展開性 | 自主活動から制度化・横展開へ

多層性 | 多様な関わり方を受け入れる



事業者を超えた
公式路線図のデザイン



統一サインシステム
(ウェイファインディング) の導入



市民WSの開催・
アドボカシー活動

⑤ 日本のMMへの示唆と期待

行動変容からビジョン共有へ

- 行動変容に加え、まちとモビリティの理想像を共有、**実現に向けた機運醸成もMMの役割**

媒介主体（NGO等）との協働をデザインする

- 専門的な情報を市民の言葉へ翻訳し、**行政・事業者・市民をつなぐ役割・ポテンシャル**

交通を社会にひらき、対話と実践へつなげる

- 計画を分かりやすく伝えるだけでなく、**市民・民間との対話を生み、意見をビジョン形成や小さな実践へつなげる仕組みをつくる**

**国内外の実践主体同士をつなぎ、互いに学び、
実践知をそれぞれの実践へつなげていく展開へ**